

ンナーはスイカをほおぼりながら、ゴールを目指した。各拠点で万に備えて待機した地元富里市消防本部他、近隣の消防も応援出動した。救急隊も今回は、軽い熱中症にかかった1名のみの搬送で、大会は無事終了した。

報道機関と協働して 「広報・報道対応研修」を実施

横浜市安全管理局

横浜市安全管理局南消防署は、同局企画課及び読売新聞社横浜支局との連携・協働により「南消防署 広報・報道対応研修」を実施した。職員「人材育成の充実」を図り、消防活動を積極的に広報し、市民に安全・安心を実感してもらうとともに、災害に関する報道対応を迅速・的確に実施することを目的としたもの。

研修会の内容は次のとおり。

- 南消防署長あいさつ
- 安全管理局企画課職員による研修「横浜市安全管理局の広報・報道態勢、記者発表・報道対応要領について」
- 読売新聞社横浜支局記者の講演「新聞記者の業務と消防の広報・報道対応について」

なお、研修会には、南消防署職員のほか、横浜市役所・南区役所職員、南警察署職員も参加し、熱心な質疑応答、意見交換が行われた。

今回の研修は、今後の消防の広報活動・報道対応に参考となるものが多く、有意義なものとなった。

また、同署では、今回の研修会以外にも年間を通じて、広報・報道に関する情報提供や研修会を実施し、消防職員の人材育成と、市民の満足度の向上を図っていく。

小林恭一元消防庁国民保護・防災部長が東京大学で博士号を取得

元消防庁国民保護・防災部長の小林恭一氏（現危険物保安技術協会理事）が5月22日、東京大学から博士（工学）

の学位を授与された（写真下）。



学位論文のテーマは、「建築物の防火安全性における建築的要素、（消防）設備の要素及び人的要素の役割と相互補完に関する研究」。

同氏は、東京大学で建築学を専攻。昭和48年に建設省に入省、建築基準法の防火関係規定を担当した後、昭和55年に消防庁に出向。以後、消防庁で長く建築物の防火安全対策を担当し、特殊災害室長、危険物規制課長、予防課長の要職を歴任した。

今回の学位論文は、その間に同氏が手がけた共同住宅特例基準、旅館・ホテルや福祉施設の夜間の防火管理体制検証マニュアルなどの施策を、消防法と建築基準法の性能規定の視点から学術的に論考したもの。

消防庁の行政官が、消防行政をテーマにした学位論文で博士号を取得したのは初めて。

2008年度の定例研究会を開催

NPO法人
防災・危機管理教育協会

NPO法人防災・危機管理教育協会が6月25日、定例研究会を東京・千代田区の憲政記念館で開催した。

今回は、白谷祐二元東京消防庁消防総監を講師に「防災機器メーカーの安全・安心づくりへの発想」のテーマで研究会（写真下）が行われ、約50名が



参加した。

定例研究会では、「防災機器メーカーの安全・安心づくりへの発想」「防災設備の本来の機能を発揮するために、なお求められるもの」「火災時における人間行動の特徴」「より安全・安心のための消防防災設備」などが話し合われた。

今回は、9月26日（金）同会場で開催が決定し、講師には小林恭一危険物保安技術協会理事（東京大学工学博士）を迎え、講義を予定している。

イベント情報

第2回全国消防職員綱引大会
10月28日開催へ

全国消防職員綱引大会実行委員会



第2回全国消防職員綱引大会が2008年10月28日、京都市北区の京都府立体育館で開催される。

全九州消防親善綱引大会と関東地区消防職員綱引大会とがそれぞれに開催されてきたところ、両大会が各地区にとどまらない交流の高まりをみせ、第1回全国大会が開催されたのが2006年10月、大阪市でのこと（写真上）。今回はその2回目となる。全国大会は隔年に開催、間の年には、従来どおり全九州と関東地区で開催している。

第2回全国消防職員綱引大会についての参加について等の問い合わせは、次のとおり。

〔問い合わせ先〕

京都市消防局市民安全課・坂本

電話：075（212）6693

当日の夕刻にはレセプションも開かれる。